【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】平成23年9月1日(2011.9.1)

【公開番号】特開2009-268200(P2009-268200A)
【公開日】平成21年11月12日(2009.11.12)
【年通号数】公開・登録公報2009-045
【出願番号】特願2008-112589(P2008-112589)
【国際特許分類】
Ｈ０２Ｋ　1/27　(2006.01)
Ｈ０２Ｋ　21/22　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０２Ｋ　1/27　５０１Ａ
Ｈ０２Ｋ　1/27　５０１Ｋ
Ｈ０２Ｋ　21/22　Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成23年7月15日(2011.7.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
積層されたロータコアにおいて、
前記ロータコアの外周面に円周等分された複数個の周方向突起部と、隣り合う前記周方向突起部の間に少なくとも２つの軸方向突起部を備えたことを特徴とするロータコア。
【請求項２】
前記周方向突起部と前記軸方向突起部の間にマグネットが備えられたことを特徴とする請求項１記載のロータコア。
【請求項３】
前記軸方向突起部は、隣り合う前記周方向突起部の略中心角に配置されたことを特徴とする請求項1または２記載のロータコア。
【請求項４】
前記軸方向突起部は、隣り合う前記周方向突起部の略中心角を中心として対称形状に形成されたことを特徴とする請求項１乃至３のいずれか１つに記載のロータコア。
【請求項５】
前記軸方向突起部は、順送型のジャンプ機能によって形成されたことを特徴とする請求項1乃至４のいずれか１つに記載のロータコア。
【請求項６】
前記軸方向突起部は、前記ロータコアの中心軸と中心として円周等間隔に配置されたことを特徴とする請求項１乃至５のいずれか１つに記載のロータコア。
【請求項７】
前記軸方向突起部は、前記ロータコアが長尺物の場合、隣り合う前記周方向突起部の略中心角に所定の間隔を離間して複数個形成されたことを特徴とする請求項1乃至６のいずれか１つに記載のロータコア。
【請求項８】
前記マグネットを前記周方向突起部と前記軸方向突起部の間に配置した後に、接着により固定することを特徴とする請求項２記載のロータコア。

【請求項９】
請求項１記載のロータコアであって、前記ロータコアの外周面にマグネットが備えられ、前記マグネットに対向するようにステータ部が配置され、前記ロータコアの内周面に軸受に支持されたシャフトが挿入されたことを特徴とするモータ。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
本発明によると、ロータコアへのマグネットの位置決めが精度良くできることから、マグネットの固定時の上下へのずれや、モータ駆動中のマグネットの振動が除去できる。
また、ロータコアへのマグネットの位置決めが精度良くでき、ロータコアに取り付けられたマグネットが上下方向にずれないように構成されることから、モータ特性の指標となるトルクリプルや速度リプルを低減することが可能となる。